

大学院共通科目

社会福祉学専攻・福祉経営専攻の2025年度以降入学者が履修登録可、2024年度以前入学者は聴講可

科目名	先端老年社会科学講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1単位
担当者	島田 裕之 (客員教員)、片山 脩 (非常勤教員)、宇田 和晃 (非常勤教員) 下田 隆大 (非常勤教員)、川上 歩花 (非常勤教員)、張 姝 (非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	高齢者や老化の問題を学際的な視点から学ぶ	
科目のねらい	<p><キーワード> 健康増進、疾病・障害予防、コホート研究、認知症</p> <p><内容の要約> 老年社会科学は、高齢者や慢性疾患患者の保健・医療・福祉に関する諸問題に対し、医学、心理学、社会学、福祉学、栄養学など様々な学問における理論や方法論を用いて学際的な視点から研究を行う学問である。本講義では、6名の担当者から基礎知識だけでなく、老年社会科学に関する最新の知見を紹介する。</p> <p><学習目標> 老年社会科学の基礎的な知識と最新の知見を理解し、個々に問題意識や関心を持ち、現在の立場でできる行動計画を立案することができる。</p>	
授業の進め方	第01回 高齢化の疾病・障害予防についての動向 (島田) 第02回 高齢者の認知症予防 (片山) 第03回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (1) (宇田) 第04回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (2) (宇田) 第05回 高齢者の身体活動 (下田) 第06回 高齢期の栄養・口腔機能 (川上) 第07回 高齢期の公衆栄養：認知症予防食生活 (張) 第08回 高齢者の内在的能力 (張)	
事前学習の内容・学習上の注意	各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病、リハビリテーション特論Ⅰ、医療・福祉マネジメント (以上、医療・福祉マネジメント研究科開講科目) 高齢者福祉論特講 (社会福祉学専攻 (通信) 開講科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	指定なし	
成績評価方法と基準	各講義日 (2限分) の小レポート 40点、最終レポート 60点で 100点満点。 総合評価により 60点以上を合格とする。	

大学院共通科目

社会福祉学専攻・福祉経営専攻の2025年度以降入学者が履修登録可、2024年度以前入学者は聴講可

科目名	統計解析講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1単位
担当者	川野 伶緒 (非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	研究における実践的問題を解決するため、交絡を中心とした因果推論の基礎と統計学的手法を理解し、研究計画およびデータ分析に応用する。	
科目のねらい	<p><キーワード> 統計学、生物統計学、臨床疫学、多変量解析、研究計画</p> <p><内容の要約> 本講義では、研究における実践的な問題を解決するための統計学の理論と応用を学ぶ。統計学には膨大な蓄積があり、その実践は多岐にわたるため、本講義ですべてを扱うことはできない。そこで研究を遂行する上で避けて通れない「交絡」を中心に、データ解析の方法論について理解を深める。具体的には、交絡の性質とその影響、交絡の調整方法、回帰分析による解析方法とその解釈を取り上げる。また、これらを習得するため、RおよびRStudioという無料で利用できる統計解析ソフトウェアを用いたサンプルデータによる演習を行う。さらに、統計学の知識はデータ解析だけでなく研究計画段階から求められることから、研究仮説の立て方や適切な研究計画の構築についても紹介する。これらを通じて、実践的な統計的知識を身につけ、自身の研究に活用することを目指す。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取り組んでいる研究の研究仮説や研究計画を適切に説明できる。 2. 交絡を理解し、回帰分析を利用した交絡調整ができる。 3. 研究者が知っておくべき統計学に関する知識を正しく理解し、自身の研究に役立てることができる。 	
授業の進め方	<p>第 1 回 研究仮説の立て方／レポート課題 1</p> <p>第 2 回 R および RStudio を用いたデータハンドリングと図表作成</p> <p>第 3 回 因果推論の基礎</p> <p>第 4 回 交絡と DAG の理解／レポート課題 2</p> <p>第 5 回 因果推論のための回帰分析 1</p> <p>第 6 回 因果推論のための回帰分析 2</p> <p>第 7 回 レポートを踏まえた口頭試問と課題の検討</p> <p>第 8 回 レポートを踏まえた口頭試問と課題の検討</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> • 演習では統計ソフトを使用するため、<u>ノートパソコンの持参は必須である</u>。 • 本講義は、大学学部レベルの統計学基礎知識を前提に実践的内容を扱うが、履修制限は設けない。ただし、一部では前提知識を仮定した説明があり、一時的に「そういうもの」と理解してもらった場面がある。講義を最大限に活用したい場合は、<u>参考文献に示した図書による事前学習を推奨する</u>。 • 事前学習としては、まず『<u>基礎医学統計学</u>』が適している。医学部学生向けに平易に書かれており、最低限の知識を広く把握できるため、本講義の準備としては十分である。より深く学びたい場合は『基礎統計学Ⅰ 統計学入門』を参照するとよい。 • R および RStudio の事前学習には、ウェブ資料が有用である。まずは『私たちの R (https://www.jaysong.net/RBook/)』(可視化の章まで)の利用を推奨する。さらに学びたい場合は『疫学のための R ハンドブック (https://epirhandbook.com/jp/index.jp.html)』(単変量・多変量回帰まで)が参考になる。 	
本科目の関連科目	研究方法概論Ⅰ(大学院共通科目)、研究方法概論Ⅱ(大学院共通科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	<p>基礎医学統計学 改訂第7版. 南江堂. (ISBN: 978-4-524-24149-1)</p> <p>基礎統計学Ⅰ 統計学入門. 東京大学出版会 (ISBN: 978-4-13-042065-5)</p>	
成績評価方法と基準	成績評価は、レポート課題1および2の内容(各30点)と、それらを踏まえた口頭試問(40点)を合算した総合点によって行う。口頭試問では、提出済みレポートを基盤として、研究目的や因果構造など研究計画に関わる主要な論点について対話形式で検討する。評価は、計画の妥当性や論理性に加え、質疑応答を通じた改善の姿勢を含めて総合的に判断する。なお、口頭試問は単なる試験ではなく、研究計画を磨くための対話の場として位置づける。	